

前回の報告書(9号)で「月形町歌」を掲載しましたが、そのことに関連した話題が寄せられました。月形町の歴史と絆を感じる素敵なお話をご紹介します。

先人の想いや身近な歴史を知ってから聞くチャイムの音、皆さんはどう感じますか？

町歌とともに よみがえる 小学校の 思い出

町歌が昼前に流れるようになって半年ほどたったある日、町内に住む昭和8年生まれの男性Mさんがニコニコしながら、少年のようなまなざしで私に話してくれました。

「毎日町歌を聴いていたから、ふっと歌が口から出てきたんです！思い出したんですよ、小学校1年生の時を！今まで一度も思い出したことがなかったのに、歌詞だけじゃなく小学校の風景や先生や友達のこと。町歌のチャイムが私の記憶の扉を開けたんですね。不思議です♪」

町歌が作られたのは昭和15年、月形村開村60周年記念のときで、Mさんはちょうど小学校1年生。式典で歌うために全校児童が練習したそうで、楽しい思い出をたくさん聞かせてくれました。ただ、2年生の時には太平洋戦争が始まり、それ以降町歌を歌うことはなくなって記憶からもすっかり消えていたとのこと。そんな忘れ去られた記憶が『町歌のチャイム』を聞いているうちに鮮明によみがえってきたのですから素敵です。

「私と同じように、町歌のチャイムを聞いて子供の頃を思い出した人が、きっと町内に何人もいると思うんです。そういう人と話ができたらいいですよね。」と、Mさんは昔を懐かしむように話してくれました。

皆さん、ぜひ情報をお寄せください。お取り次ぎします。町歌の歌詞もあります。どうぞ気軽に声をかけてください。

音楽の力はすごい！感動です。それから、町歌は作られてから70年、戦争もくぐり抜けてきたんですね。言われてみれば当然なのですが、お話を聞いたことでより一層町歌が身近になり、思い入れも深くなりました。

本当にいいお話を聞かせていただきました。町歌を歌える幸せを噛みしめて、これから歌い継いでいきます♪

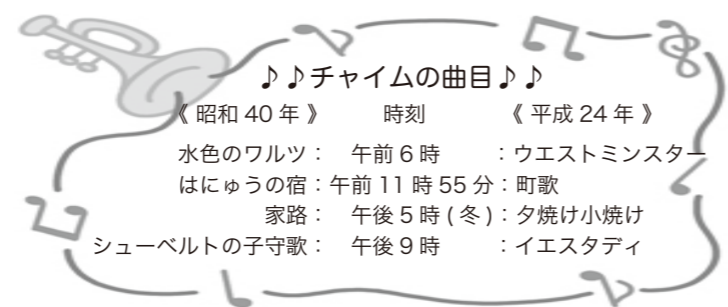


愛の鐘

月形ライオンズクラブ
からの贈り物

お昼5分前になると町歌が町内一円に流れます。このように定時にチャイムが流れるようになったのは、『愛の鐘』が寄贈された今から46年前、昭和40年5月30日からです。

この『愛の鐘』とは、6個のスピーカーからなる音響設備のことで、月形ライオンズクラブが結成1周年記念事業として月形町に寄贈しました。当時の消防署望楼(現在の役場庁舎)に取り付けられ、4km四方にチャイムを届けていたそうです。『愛の鐘』がチャイムを流す時刻は今と同じ。その曲目は、こちら。



総工費は45万円、今の価値では約180万円になります(消費者物価指数で換算)。記念事業とは言え、全て寄付で賄われていたのですから驚きです!!

この事業を紹介する月形ライオンズクラブ会報には、『サイレン』から『愛の鐘』へ・・・青少年の健全育成を図って、明るいまちづくりの一助にしたいという願いから

とつづられています。いつの時代も『希望』が心の栄養であり、人を動かすのですね。心が熱くなりました。

この『愛の鐘』は修理を重ねながら大事に使われ、平成2年の消防庁舎新設とともに現在の場所に移されました。そして平成7年、全町13カ所の基地をつなぐ防災無線に役割を引き継ぐまで、30年間ずっとチャイムを届け続けました。

月形町の暮らしの中で何気なく耳に入ってくるチャイムの音は『愛の鐘』から始まっていたのですね。今回初めて『愛の鐘』の存在を知ったのですが、郷土愛に満ちたとても素敵なお話でした。私も調べることで皆さんの思い出や笑顔に触れられて楽しかったです。

ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

編集後記

この1年の心の動きを追ってみると、3月11日に突然ぽっかり穴が空き、しばらくはそのままだ。季節が進み植物の成長する姿を見、大地の恵みを食し、人と話し、声を聴いているうちにいつしか心の空白は埋まって満たされ、外に向かい出しました。やりたいことが次々浮かび、前に進む覚悟も芽生えました。振り返ってみれば、物事の変化に触れて心が躍ることが私の心の栄養になっていたのです。◆今回の報告書を書くに当たり思い出を伺ったり、資料を調べていただいたり、たくさんの人との会話を通してさらに栄養補給ができました。◆今度は私から皆さんに「心の栄養」をお届けする番です。この報告書のどこかのページで皆さんの心が動き踊ってくれたなら嬉しいです。◆議員の仕事は『人と人』『人と物』そして『過去と今』『今と未来』をつなぐこと。

ゆみこの 議員活動 報告書

2012.2.8

10

『災後社会』を迎えて、今なすべきこと

東日本大震災からもう少しで1年

昨年3月11日午後2時46分、大地震発生時、皆さんはどこで何をしていましたか？

私は月形郵便局のロビーで名前が呼ばれるのを待っていました。テレビから突然流れた緊急地震速報のけたたましい音、長くゆったりと続く足元の揺れ、それと対照的にグニャグニャと激しく揺れ動く電線を覚えています。

あの日、津波や原子力発電所の事故など、それまで見たこともない景色や考えもしなかったことが現実になりました。その影響は今も、そしてこれからも続いて・・・震災を境に多くのことが変わってしまったのです。

『戦後社会』から『災後社会』へ

でも、直接的な被害のなかった私たちは「変わってしまった」ことをきちんと認識できているのでしょうか？作家で東京都副知事の猪瀬直樹氏は、コラムで

「千年に一度」の未曾有の自然災害と言われるこの震災から得た教訓は、「戦後社会」から「災後社会」へと、歴史区分を明確にする時期が来たということだ。これからは「戦後何年」ではなく「災後何年」と意識的に言うべきである。そうすることでこの国は変わる。

猪瀬直樹「眼からワロコ」2012年1月4日 nikkei BP net

と言っています。まさしくその通り！

「戦後」から「災後」へ、社会が変わったと認識することが重要だということに、私も同感です。これからの社会は戦後復興期のように覚悟を持って目の前の課題を解決しなければならないのでしょうか。私には経験のない時代ですが、そうだとすると覚悟を決め、これ以上のツケを残すことも先送りもしない時代にしていかなければなりません。



暦は春になりました。

この冬は最初から大雪、そしてずっと雪*雪*雪。月形に住んで18年になりますが、初めての景色です。

皆さんお元気ですか？ 外は一面銀白でも暦はすでに春。日差しも日に日に力を取り戻し、少し先が見えてきました。あと少しです。地域で、仲間、家族で声を掛けあって乗り切りましょう。

今回は中学生にも読んで欲しいと思い、紙面配置を見直し語句説明も入れました。いかがでしょうか。

* * * * *

発行 宮下裕美子(月形町議会議員)
樺戸郡月形町市南1 TEL・FAX 0126-53-2611
メール mail@yumiko3.net IP テレビ電話 76-1019
ホームページ http://www.yumiko3.net/
ゆみこの日記 http://www.yumiko3.net/blog/

『災後社会』の課題

『災後社会』は被災地だけでなく、日本そのものや全国各地域に対しても多くの課題を与えました。一層支援が必要な地方、高齢化や過疎化の問題。生命の安全に大きく関わる原子力や食の問題。産業や日常にとってのエネルギーの問題・・・震災後に発生した新たな問題に加え、震災前から存在し先送りしてきた問題が、大至急対処しなければならぬ課題へと変化したと言えます。

課題が多く、様々に広がり、緊急を要することから、今までのように国任せ(他人任せ)や、縦割り意識(縄張り)に縛られていては到底解決できないでしょう。自由な発想や根拠のある飛躍も必要だと感じます。そしてなにより、国も道も町も私たち一人一人も、誰もが自分のこととして考え行動していくことが重要になってきたのです。

今、求められていることは？

私たちは震災によって『絆』の重要性を認識しました。身近な人との関係がどれほど大事か、精神的な安定とゆとりがどれほど価値のあるものか、私自身も見えないものの重要性に今更ながら気付かされました。

そして今、議員の私に求められているのは何なのか。私は、政治や行政(議会や町)の仕事は『未来を創造すること』だと考えます。実際には「目の前の課題を解決すること」ですが、その行動は未来につながらなければなりません。目には見えないけれど希望の種となる「未来」に向かって、日々活動していきたいと思っています。

そこでまずは3月定例会の平成24年度予算審議。社会構造や価値観の変化、増税が避けられない「災後社会」を踏まえた予算が組まれているのか、予算案の修正や否決などの手法も含め、今まで以上に厳格にチェックしていきます。

月形町議会初！ 修正案を提出

平成23年第3回(9月)定例会で、一般会計補正予算に対して平田議員とともに修正案を提出しました。修正内容は【商工費3,000万円(樺戸博物館展示物の改修費)】を全額減額するというものですが、審議結果は「原案可決」となり、修正案は通りませんでした(「議会だよりNo.4」で報告)。そして今冬、樺戸博物館の展示物改修工事が行われています。

結果にはつながりませんでしたが、この「修正案の提出」は月形町議会にとって大きな意味があったと考えています。それは、全国的な流れである「開かれた議会」に一步近づいた行為だったからです。

修正案提出の意味

国と地方は2000年(平成12年)から、地方分権に向けて本格的に動き出しました。その後も法律改正があり、次第に議会の役割と責任が大きくなってきています。よく耳にする「開かれた議会」は、その一つの目標であり象徴です。

このような時代の流れの中、月形町議会も少しずつ議会改革に取り組んできました。「議会だより」の発行や、全員協議会の公開などがそれです。

ただ残念ながら、議会の最終意思決定の場である本会議は形式を重んじるため未だ旧態依然としていて、前例踏襲や事前調整を引き継いでいます。結果、議論の経過は不透明になりやすく、緊張感の乏しい状況です。これでは町も議会も、町民の皆さんに説明責任を果たしたとは言えません。

このような状況の中、今回の「修正案の提出」は月形町議会初、つまり前例を破る行為でした。形式を重んじて進まなかった本会議の改革が一步前進したことを意味しています。

そして何より意味があるのは、多くの人が関わった一歩であるという点です。修正案の提出手続きには2名の議員が必要ですが、今回、平田議員の賛同を得て発議者として名前を連ねました。また採決時には宮元議員の賛成もありました。煩雑な議事進行に関しては、議長や議会事務局の協力も欠かせません。一人の議員の行動ではなく、これらが全て整った結果だからこそ意味のある一歩になったのです。

なぜ修正案を提出するに至ったのか？

私はこの補正予算【商工費3,000万円(樺戸博物館展示物の改修費)】に疑問を持ちました。具体的には以下の3点です。

① 平成23年度執行方針に、この事業に関するものは一切触れられていない

平成22年度途中で、国の予算を使って「樺戸博物館の展示物を変更するための調査実施計画を立てる」という簡単な説明はありました。しかし、展示品を入れ替えることがその後の「まちづくり」にどのように活かされるのか、具体的には、月形町の総合的な未来像や工程表、(集客等の)数値目標などが全く示されていません。

(※)この後、平成23年12月の定例会一般質問で「歴史遺産を活かしたまちづくり」を問いました。

② 樺戸博物館の展示改修工事に緊急性があるのか

補正予算は本来「予見し難い事態に対応するために作成される予算」という位置づけです。

開町130年の行事はすでに終了し、全町を挙げて関係機関や観光客を呼び込む行事も予定されていません。この状況で単費(月形町単独のお金)3,000万円を、緊急支出が目的の補正予算として計上する必要があるのでしょうか。

新しく何かを始める場合は、通常3月の新年度当初予算に盛り込まれます。平成24年度で間に合うのでは？

③ 社会情勢の変化を認識しているのか

この事業の計画は東日本大震災前でした。東日本大震災は大きな転換点です。「災後社会」の今、計画を再度練り直すことも必要になるのでは？

これらを「質疑」の中で問いましたが、私には納得できる十分な回答ではなかったため、「修正案の提出」に至りました。

これからの町議会に求められていること

今も月形町議会では、「議案の否決は町長の不信任と同じ」という考え方が主流を占めていますし、「本会議は決裁の場」という考えも残っています。しかし今回の修正案提出で、「本会議は議論の場であり、審議の場」という現代の地方自治における議会の位置づけに一步近づけたと感じました。

「修正案の可決」や「議案の否決」は一つ一つの審議の結果であって、それがすぐに町長の信任を解くことにはなりません。その保証がなければ正当な議論はできないでしょう。

また町議会は二元代表制です。国会の議院内閣制とは違い、与党や野党はありません。一人一人の議員がその考えと判断に従って「是々非々の議論」をし、審議する場なのです。

行政改革や地方分権など、一見、行政(国や町)が改革の中心のように思いますが、時代は議会や議員にも変革や責任を強く求めています。それはすなわち、町民(国民)の理解と意識改革、行動変化を求めていることと同じです。

皆さんがどう判断するか、その行動で未来は変わります。

語句説明(広辞苑より)

- 旧態依然：昔からのままであるさま。
- 前例踏襲：以前にあった例をそのまま受けつぐこと。
- 煩雑：わずらわしくごたごたすること。
- 決裁：最高責任者が、部下の提出した案の採否を決めること。
- 議論：互いに自分の説を述べあい、論じあうこと。意見を戦わせること。
- 審議：くわしく事の可否を論議・検討すること。
- 信任：信じて事を任せること。
- 是々非々：是を是として賛成し、非を非として反対し、公平な立場で判断すること。

第2回 にじいろ広場 開催のお知らせ



議員2期目の活動として皆さんにお約束した【茶話会】=【にじいろ広場】の2回目を開催します。今回は特にテーマを設けずに、皆さんと自由にお話ししたいと思います。

例えば、この「ゆみこの議員活動報告書10」や「議会だより」へのご意見やご感想、広域ゴミ処理の進捗状況や疑問点、普段の暮らしで困っていることや要望、これからの月形町に望むことなど何でも。世間話もOKです。お茶とお菓子を囲んで気軽にお話ししましょう。

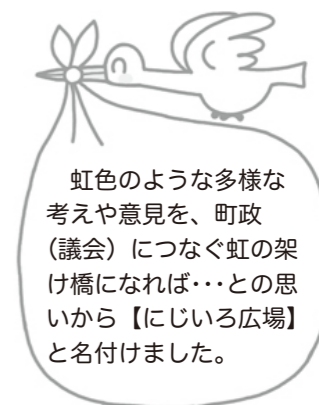
申し込みは必要ありません。当日都合のいい時間にお気軽にお越しください。お子様連れでも大丈夫です。

ここで第1回【にじいろ広場】の報告です。

第1回は去年の5月30日に『月形町のゴミ処理』をテーマに開催しました。当時月形町は二つの枠組みで広域処理を検討している段階だったので、その状況説明や技術的な解説を織り交ぜながら、「今後のゴミ処理」について参加者の皆さんと意見交換をしました。また、最近のゴミ収集実態や改善要望、町の施策や議会に対する疑問や質問、ご意見などもいただきました。もちろん『にじいろ広場は自由な会話の場』なので、世間話や雑談もあって、楽しく和やかな雰囲気でした。

会場の交流センターには、開催時間中(9:30~20:30)に総勢12名の方にお越しいただきました。貴重なお話が伺えたのはもちろんですが、初めてお目にかかる方や久しぶりにお話しする方がいらしたり、これをきっかけに地域の集会に呼んでいただけたりと、活動の幅が広がりました。開催して良かったです。

ご参加いただいた皆さん、ありがとうございます。



虹色のような多様な考えや意見を、町政(議会)につなぐ虹の架け橋になれば...との思いから【にじいろ広場】と名付けました。

茶話会 & 学習会

宮下裕美子・議員活動

【日時】平成24年2月13日(月)
午前10時~午後6時

【場所】交流センター会議室(イス席)

【内容】■茶話会：自由にお話ししましょう
例えば○「ゆみこの議員活動報告書10」や「議会だより」に対する意見や感想
○広域ゴミ処理の状況
○大雪の状況や対策、普段の暮らしのこと
○育児環境や教育など、子育て全般
○これからの月形町 他、何でもOKです。

【その他】無料、申し込み不要
◎都合のいい時間に、お気軽にお越しください。
◎お子様連れでも大丈夫です。ぜひ、どうぞ。

【問い合わせ先】
宮下裕美子
TEL & FAX 53-2611
IP テレビ電話 76-1019
携帯 090-7646-3837

宮下ゆみこ、武者修行中

『議員の仕事は、未来を創造すること』と考える私は、役立つ情報や新しい発想を求めて町外活動にも積極的に取り組んでいます。その中で「人前で発言すること」は気後れすることもしばしばですが、これはいわば『武者修行』。私自身も「未来へつながる」と信じて挑戦しています。

この1年も様々な武者修行をしましたが、特に印象に残っているのは北海学園大学開発研究所などが開催した「市民参加手法の公開研究会」。大教室に自治体職員や議員、学生らが大勢集まる中、「自治体財政」と「市民参政」をテーマに5人の問題提起者と司会者が公開で討論しました。私は問題提起者の一人として参加。他には奈井江町長/北良治氏、ニセコ町長/片山健也氏(ともに地方自治の先進的首長)、室蘭市長/青山剛氏(30代市長)、



北海学園大学経済学部教授/内田和浩氏(地域社会学)、そして司会は北海学園大学開発研究所特別研究員/森啓氏です。

参加者で唯一議員の私が「課題を掘り起こす」という議員の視点で発言すると、誰もが真摯な姿勢で、独自の視点と経験に基づく発言を返してくれたので議論が次々と展開していき、緊張感の高い白熱した討論になりました。会場も一体となる森先生の巧みな司会もあり、途中休憩を挟むことなく3時間、とても満足度の高い経験になりました。(なお、この様子は「財界さっぽろ・2012年新年特大号」に掲載されています。ぜひ、ご覧ください。)

今回に限らず「武者修行」は、当日の刺激的な体験だけでなく、事前の準備や調査で月形町の実態を把握できますし、担当職員との会話で新たな発想も生まれます。私にとっては『未来を創造する』ための不可欠な議員活動になっています。

これからも宮下ゆみこは、『武者修行』に励みます!